

災害時に必要な単語や文章を英語で話そう



第5回（文系第3回）チャレンジ講座を7月16日（水曜日）に行いました。今回は、経済学部朝美淑子先生に「災害時に必要な単語や文章を英語で話そう」というテーマで講義をしていただきました。

まず初めに、「防災英語教育のきっかけ」について話していただきました。熊本地震の際、防災意識が脆弱な外国人、具体的には10年以上日本に在住している外国人教師との出会いがあったそうです。長く日本で暮らしていても、災害発生時に適切な対応ができなかったということでした。

この背景には、「気を使いすぎた」英語による混乱や、「日本特有の地震に関する知識」の不足があるようです。ここでいう「気を使いすぎた」英語とは、無理に英語で表記しようとしたことで、かえって混乱を招くケースを指します。たとえば、「春日神社」を「Kasuga Shrine」と英訳するよりも、「Kasuga Jinja」とローマ字で表記した方が、看板と地名に整合性があり、緊急時にはより伝わりやすいということです。



自分が外国人だったら？自分が海外にいたら？を考えてみよう。（資料2）

- ・Runと叫んでも、どこに走ったら良いのかわからない。（この表現がベストかどうかを考えてみる、教える）
- ・そもそも、どのようにとっさに身を守ればよいのかわからない。
- ・避難所に行ってみたが、水が飲みたい、赤ちゃんがいて困る
- ・アレルギーや宗教により、もらったものが食べられない
- ・英語対応ができる病院を紹介してほしい

次に参加者は、避難中や避難所で外国人がどのような状態に置かれているのかを想像する活動を行いました。先生は、「自分自身が海外で災害に遭った場合を想像し、その想像をもとに考えてみましょう」と呼びかけられました。

また、地域によって災害の種類は大きく異なるため、それぞれに応じた防災英語の準備が必要である、という指摘がありました。したがって、自分の地域の災害リスクを正しく理解し、それを英語で伝えられるようにすることが重要だ、と説明されました。

最後に、「日本人だけでなく、すべての人の命が一つでも多く助かるように考えることが大切です」とお話いただきました。



今回の記事（講義概要）は、安心院高校が担当しました。

今回の講座には、会場の経済学部203号教室で2名、オンラインで329名、合計331名の高校生が参加しました。感想の一部を紹介します。

○防災での外国人の対応はあまり思ったことがなかったので外国人が災害時に困っていること、表記、実際に災害時に外国人に対してかける言葉など初めて知ることが多くとても勉強になりました。

○国際化が進む中で、地震大国と呼ばれる日本では非常に必要な視点だと思いました。国を挙げて想定、対策すべきことではないかと思います。私自身も今まで考えたことがなかったので、非常に興味深く、面白かったです。日常的にも考えてみたいと思いました。

簡単な英語でも実際に使えなければ！（資料4）

避難、避難すること	evacuation, evacuate
避難所	evacuation center
姿勢を低くして	Stay low
地震	earthquake
地震速報	earthquake alarm
頭上に気を付けて	Watch your head!
もっと大きいのが来るかもしれないよ	There may be bigger one.
私がいるから大丈夫	It's OK, I'm here. 一歩も動かせずあげよう
机の下に入ってください。	Get under your desk.
ガスを消してください。	Please turn off the gas.

○少しの努力、工夫でコミュニケーションをとることができることに気づくことができた。指差しで話をするという考えが私には驚きだった。次回もこのような素晴らしい会を開いて欲しいと思った。